

【高等学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	佐賀県立唐津西高等学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校推薦型・総合型入試で国立大学に12名、私立大学に50名が合格した（R6.1現在）。また、この後行われる一般入試でも九州大学をはじめ、国立大学に多くの生徒が挑戦するなど、一般入試の結果も期待できる。 ・小さな行事であっても表彰式を行ったり、学校文集により多くの生徒が関わるような内容に変更したりと、生徒の活動を評価する機会を増やした。 ・「総合的な探究の時間」の取組は、質・量ともに充実し、多くの生徒は自分の興味・関心のある分野が地域課題解決に役立てられるかを模索することができた。 ・令和6年度から始まる新コース設置のために、教育振興課の強力な支援を受けながら準備や周知活動を行ってきたが、外部機関等への周知がまだ不十分であった。 ・次年度は、生徒が主体的に活動できる機会を学校教育活動の至るところに設け、受動的態勢から能動的態勢への大転換を図りたい。 		
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○普通科改革を推進し、各コースの下、生徒一人一人の主体的活動を促し、多様な進路の実現を目指す。 ○協働的な活動による、地域課題や自らが立てた課題の解決を通して、地域社会の未来を担う、志のある人材を育成する。 		
3 スクール・ポリシー	<p>アドミッション・ポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ふるさと唐津・佐賀を誇りに思い、地域社会に貢献しようとする生徒 ②文武に励むとともに、生徒会活動やボランティア活動にも積極的に取り組み、個性や能力の伸長に努めようとする生徒 ③社会のモラルやマナーをよく理解し尊重し、人間的なつながりを大切にしようとする生徒 	<p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>「双松の力」である「基礎力」「着眼力」「解決力」「発信力」「計画力」「改善力」の育成を目指し、探究活動を教育の柱とした学習活動を実践する。</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー</p> <p>地域課題や自らが立てた課題を発見し、人とのつながりを大切にしながら解決に向けて意欲的に行動することができる人材を育成する。</p>
4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①地域に信頼され、選ばれる学校づくり ②新しいコース制における校内体制の確立 ③探究活動・課題解決学習の推進と必要な知識・技能の習得 ④生徒が目指す多様な進路先の実現 		

5 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1)共通評価項目				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○教師の指導力向上 ○生徒の授業理解度の向上	○生徒による授業評価の満足度80%以上 ○ICTを活用した授業に取り組んでいる教員の割合100%	・授業評価アンケートを各学期末に実施し、授業改善に努める。 ・初任研や中堅研に伴う研究授業や相互授業参観週間を年間2回設定し、授業研究を行う。(7月・11月) ・ICTを効果的に活用している教職員の活用例を紹介する。	教務部
	○進学意識の向上 ○多様な進路選択の支援と大学進学実績の向上	○大学進学希望者の割合70%以上 ○国立大学 合格者 25名以上 私立大学 合格者100名以上	・進路方針、進路情報を定期的に生徒・保護者に発信する。(進路講演会、進路だより、進路のしおり、進路情報誌等) ・生徒一人ひとりの進路希望を把握し、情報交換・情報共有を行う。 ・進路検討会や個別指導の充実を図り、進路希望や個人の適性に応じた受験体制をととのえる。 ・進路希望の早期決定(大学訪問、オープンキャンパス参加)を促す。	進路支援部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「他者を思いやる言動ができた」と回答した生徒80%以上 ○情報モラルに関する意識及び知識を持っている生徒80%以上 ○図書貸出総数年間1500冊以上	・双松祭等の学校行事等後にアンケートによる振り返りを行う。 ・情報モラルや人権に関する講演会やHR活動を実施する。 ・朝読書を活用して図書館利用を推進する。 ・魅力的な図書館行事や読書企画の開催と、図書館レイアウトの工夫をし、図書館に来場する生徒数を増やす。	生徒支援部 教務部 図書部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について「組織的対応ができている」と回答した教員90%以上	・多面的に生徒の状況を把握・理解し、組織として支援する。 ・欠席の多い生徒について、職員会議で情報共有し、共通理解を図る。 ・学校生活アンケートを年間3回実施する。 ・週に一度、生徒支援部会を実施し、生徒に関する情報を共有する。	生徒支援部 教育相談担当
	◎夢や進路希望の実現に向けて努力する教育活動の推進に向けた取組の充実	◎将来の夢や希望を持つ生徒の割合90%以上 ◎キャリアパスポートの活用率100%	・探究支援部と連携し、キャリアパスポートを活用する。 ・classi、スタディサポートを活用し、自己発見につなげる。 ・体験的活動を取り入れた地域との連携を図る。	教務部 進路支援部
●健康・体づくり	●健康を考えて行動できる能力の育成 ●安全に関する資質・能力の育成	○朝食をとって登校する生徒の割合70%以上 ●交通マナーを守ることができている生徒80%以上	・集会等での呼びかけや保健だより等により意識の向上を図る。 ・classiで生活習慣アンケートを実施し、結果を指導に活かす。 ・防犯教室を実施する。	保健部 生徒支援部
	○部活動の活性化	○部活動をおとして、主体性や自己管理能力が身についたと思う生徒の割合70%以上	・全体で部活動の取組を共有するとともに、リーダー研修会を開催する。 ・各部活動ごとのミーティングを推奨し、練習計画や振り返りを実践する。 ・表彰式を毎学期(年間計3回)行い、生徒の活動意欲を向上させる。	生徒会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年次休暇取得日数の平均14日以上	・定時退勤推進日の設定(月曜日)とボード掲示や口頭による啓発を行う。 ・夏季休業中に学校閉庁日(8月9日～16日)を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備する。また、年休取得状況を知らせる(7月)。 ・月の時間外在校等時間報告を、毎月行う。 ・資料の事前配布やSEI-Netの各機能を活用し、集发型会議の精選を図る。	教頭
	○健康管理と心身の健康の保持増進	○定期健康診断(人間ドックを含む)受診率100%、及び再検査対象者受診率70%以上 ○メンタルヘルス講座(アンガーマネジメントを含む)の実施	・毎月1回、衛生委員会の報告と健康づくり情報誌Smileによる啓発を行う。 ・定期健康診断及び人間ドック受診状況の把握、再検査対象者へ個別の声掛けと受診勧奨を行う。 ・外部講師によるメンタルヘルス出前講座を行う(7月)。	教頭 事務部
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育や不登校に関する研修会の実施 ○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・スクールカウンセラーによる職員研修会を実施する。(6月) ・学年情報会などを通して、教員が生徒理解や生徒を支援する状況づくりに努める。	特別支援担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★SAGAコラボレーションスクール指定校として、学校運営協議会を活用した学校の活性化	★学校運営協議会を年間3回以上 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合70%以上、教職員の割合70%以上	・学校運営協議会を年間4回開催する。4月上旬に開催予定日を委員に伝えることで参加率を高める。 ・探究活動やボランティア活動において、学校運営協議会を中核とした地域連携を計画的に実行する。	探究支援部
	★新コース制導入における校内体制の確立	★学校外のいろいろな人に話を聞きに行った生徒の割合70%以上	・総合的な探究の時間等で、地域の魅力や課題について実践的アプローチと学問的アプローチの取組を直接フィールドワークで学ぶ。 ・生徒が主体的に疑問や問いを考える活動を多く取り入れる。	探究支援部
○地域に信頼される学校づくり	○地域貢献・ボランティア活動の充実 ○学校内外への広報活動の充実と魅力発信の強化	○ボランティアなど地域貢献活動をした生徒の割合70%以上 ○学校HPの定期的な更新(週1回以上) ○学校説明会や中学校訪問など学校PRの機会を年間20回以上行う。	・地域の様々な行事や活動を積極的に紹介し、参加を促す。 ・新コース設置の広報なども含め、学校HP、メール配信、SNSの活用による学校の情報発信を積極的に行う。 ・インスタグラムをリニューアルし、組織的に情報発信を行う。 ・中学校訪問及び中学生の学校見学会の充実を図る。 ・学校開放日の取組内容の工夫を図るとともに、開催についての周知を徹底する。	教務部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり